

令和8年第1回定例会3月議会 発言通告一覧表

市議会の本会議は、どなたでも自由に傍聴できます。本会議は午前10時から開会します。傍聴される方は議会棟3階傍聴者ロビーへ直接お越しください。発言内容の詳細については、次ページ以降をご覧ください。

発 言 順 位

3月2日（月）

(1)	竹内	きよ子	議員	(かがやきネット・市民の会)	…… P 2
(2)	千住	啓介	〃	(自由民主党明石)	…… P 3
(3)	梅田	宏希	〃	(公明党)	…… P 4
(4)	中村	茂雄	〃	(明石維新の会)	…… P 5
(5)	河村	和歌子	〃	(公明党)	…… P 6
(6)	正木	克幸	〃	(明石維新の会)	…… P 7
(7)	山中	裕司	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 8
(8)	出雲	有希子	〃	(自由民主党明石)	…… P 10
(9)	辻本	達也	〃	(日本共産党)	…… P 11

3月3日（火）

(10)	中西	礼皇	議員	(対話の会あかし)	…… P 13
(11)	家根谷	敦子	〃	(スマイル会)	…… P 14
(12)	飯田	伸子	〃	(公明党)	…… P 15
(13)	高尾	秀彰	〃	(明石維新の会)	…… P 17
(14)	寺井	吉広	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 18
(15)	井藤	圭順	〃	(自由民主党明石)	…… P 20
(16)	長尾	博子	〃	(公明党)	…… P 22
(17)	林	丸美	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 24

3月4日（水）

(18)	三好	宏	議員	(自由民主党明石)	…… P 25
(19)	尾倉	あき子	〃	(公明党)	…… P 26
(20)	上田	雅彦	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 27
(21)	金尾	良信	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 28
(22)	黒田	智子	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 29
(23)	中川	夏望	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 32
(24)	山下	祥	〃	(かがやきネット・市民の会)	…… P 34

※ 順位については予定です。

令和8年第1回定例会3月議会発言通告一覧表

(代表質問)

発言順位	1	議員名	竹内 きよ子 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>1 令和8年度当初予算案について</p> <p>(1) 令和8年度当初予算案の本市の財政状況と今後の見通しについて</p> <p>(2) 財源確保のための対策について</p> <p>2 本市の教育現場が抱える課題とその対策について</p> <p>(1) 児童生徒が増加している小中学校の教室整備の対策について</p> <p>(2) 小中学校の空調不具合の検証及びこれからの課題について</p> <p>(3) カリキュラム・オーバーロードの改善策について</p> <p>3 環境への取組と課題について</p> <p>(1) ゼロ・カーボン、ゼロ・ウェイストあかし、ネイチャーポジティブについて、本年度の取組と成果を踏まえ、何をどこまで進めていくのか。</p> <p>(2) 10年後のイメージをどう考えているのか。</p> <p>4 本市の防災における課題と今後の取組について</p> <p>(1) 南海トラフ地震が予想される中、防災の取組を市としてどのように課題認識しているのか。</p>		

(代表質問)

発言順位	2	議員名	千住 啓介 (自由民主党明石)
発言事項	<p>1 明石市が強く豊かになるための未来への投資について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 東外港を中心にしたL字のまちづくりについて(2) 国が示す「責任ある積極財政」への対応について(3) 本市の運動施設の適正配置について(4) 未来のための最終処分場延命について		

(代表質問)

発言順位	3	議員名	梅田 宏希(公明党)
発言事項	<p>1 令和8年度予算編成方針と市政運営の基本姿勢について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 財政健全化による主要3基金100億円の維持について(2) 健康長寿と福祉経費の抑制の両立について(3) 市民の命を守るインフラ整備と将来負担のバランスについて(4) 歳入確保の「稼ぐ力」と産官学民連携の推進について <p>2 新ごみ処理施設整備について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 事業者選定における評価のポイントについて(2) 環境対策と安全性、周辺交通への配慮について(3) 継続的な情報公開と住民理解の促進について		

発言順位	4	議員名	中村 茂雄 (明石維新の会)
発言事項	<p>1 令和8年度施政方針について</p> <p>(1) 過去最大の2,488億円超の予算編成に加え、総額664億円超のごみ処理施設整備等の巨大プロジェクトが重なり、本市の財政は本格的な償還・維持管理費の増大期を迎える。厳しい現実を直視した合意形成をどう図るのか。</p> <p>(2) 人口増による税収増モデルが、物価高騰や扶助費増大により限界を迎えている。不測の事態に備える財政調整基金の積立目標と、持続可能な税基盤を築くための産業振興・雇用創出への投資をどう実現するのか。</p> <p>2 兵庫県における「起債許可団体」への転落による市民生活への影響について</p> <p>(1) 投資的経費の抑制によって、播磨臨海地域道路、明石公園整備等の進捗に遅れが生じる懸念はないか。</p> <p>(2) 県が負担すべき事業費が「市への負担増加」や「補助金の削減」という形で転嫁された場合はどうするのか。県の財政健全化計画が市民サービスに直結する福祉や教育、防災分野の連携事業を削るものにならないよう、どう対応していくのか。</p>		

発言順位	5	議員名	河村 和歌子 (公明党)
発言事項	<p>1 新年度予算における不妊治療の新たな支援について</p> <p>(1) 新たな不妊治療助成のモデル事業と今後の取組について (要旨) 妊娠前からの継続した子育て支援（子育てまるごとサポート＋）として、年齢や回数に制限を設けない助成制度は兵庫県内初と聞いている。本市の今後の取組を問う。</p> <p>(2) 新たな不妊治療助成の周知について (要旨) 子どもを望む夫婦に確実にお知らせできるよう、どのように周知に取り組まれるのか問う。併せて、不妊治療ペア検査助成事業、不妊治療相談のさらなる周知に取り組まないか。</p> <p>(3) プレコンセプションケアの観点からのさらなる不妊治療支援について (要旨) 将来を見据えた切れ目のない支援、また、後手に回らない支援に向けた取組が重要である。例えば、他自治体ではプレコン検診などを実施しているところもあると聞いている。本市の見解を問う。</p> <p>2 JR魚住駅周辺地域の活性化について</p> <p>(1) タウンミーティングの声を受けた行政の現状認識について (要旨) 昨年11月23日のタウンミーティングにおいて、市民からの「地域の賑わいが低下している」、「家族で食事ができる店や買物に行く店が少ない」という切実な声を本市はどのように受け止めているのか問う。</p> <p>(2) 官民連携した魚住駅周辺地域の活性化の取組について (要旨) 「住みたい、住み続けたい」と思える魅力ある魚住のまちづくりのため、住民、民間事業者、行政が連携した協議の場を設け、駅周辺の活性化に取り組まないか。本市の見解を問う。</p>		

発言順位	6	議員名	正木 克幸 (明石維新の会)
発言事項	<p>1 包括的な福祉及び介護に関わる現場の人員不足について</p> <p>(1) ケアマネジャーの法定外業務などの介護福祉関係者の負担軽減について (要旨) 先般の議会でも議論した法定外業務について、議会報告会での関係団体との意見交換などを経て現場のニーズに合った取組や課題点を抽出してきたが、今後の負担軽減策について、本市の見解を問う。</p> <p>(2) 福祉人材の確保、定着、育成の取組と今後の展開について (要旨) 広域的な視点での福祉人材の確保や定着について、サービスを受ける側の価値観の変化や実情に合わせた取組が必須とされる中で、今後の展開について、本市の見解を問う。</p> <p>2 神戸大学との連携協定について</p> <p>(1) 神戸大学との連携協定の今後のビジョンについて (要旨) 様々なジャンルでの連携協定が先般締結されたが、特に連携協力事項に示される地域医療・社会福祉の連携推進について、具体的な進捗状況や今後の連携構想について、本市の見解を問う。</p> <p>3 中学校給食センターを活用した新たな食育や居場所の確立について</p> <p>(1) 中学校給食センターを利用した食育について (要旨) セントラルキッチン方式にて調理されている中学校給食は作っている現場が見えないため、給食センターを開放し、新たな食育を行うことについて、本市の見解を問う。</p> <p>(2) 不登校児童に対して給食の思い出を作る取組について (要旨) 社会とのつながりを作るという意義と同時に、大人になった時の給食という共通の話題を持つことも、社会とのつながりを保持する重要な要素であるため、不登校児童に対して給食の思い出を作れるような取組について、本市の見解を問う。</p>		

発言順位	7	議員名	山中 裕 司 (かがやきネット・市民の会)
発 言 事 項	<p>1 認知症になってからの支援だけでなく、発症を遅らせるまちづくりへ</p> <p>(1) 認知症予防施策の強化について (要旨) 本市では、認知症の疑いのある人へ認知症診断費用の全額助成や認知症サポート給付金の支給など、発症後の支援は進められている。しかし、多くの市民が本当に求めているのは、「できるだけ元気でいたい」、「家族に負担をかけたくない」という思いに応える予防の取組だと考える。本市の認知症予防の取組と今後の方向性について問う。</p> <p>(2) 男性高齢者の孤立対策について (要旨) 近年、高齢者の社会的孤立が大きな課題となっており、特に深刻なのが男性高齢者の孤立と言える。現在、本市においても通いの場やサロン活動が展開されているが、参加者の多くは女性であり、男性の参加率は低い状況が続いている。認知症予防の観点から、男性高齢者限定の取組が必要だと考えるが、市の見解を問う。</p> <p>2 障がいのある方の「親なき後」を支える生活基盤の整備について</p> <p>(1) 親心信託などの情報提供体制の整備について (要旨) 障がいのある子を持つ保護者の多くが、「自分が亡くなった後、この子の生活やお金はどうなるのか」という強い不安を抱えている。現在、成年後見制度や家族信託、いわゆる親心信託といった制度があるが、制度があること自体を知らないことや、手続きが複雑で専門的であるため違いなどが十分に周知されていないという課題がある。単なる制度紹介にとどまらず、専門職と連携した伴走型の支援体制を構築すべきと考えるが、市の見解を問う。</p> <p>(2) 医療的ケア対応型グループホーム及び看取り対応の体制整備について (要旨) 障がいのある方の高齢化・重度化が進む中で、医療的ケアや終末期対応まで見据えた住まいの確保は、避けて通れない課題と言える。現在、国の報酬制度には、医療連携体制加算や看取り介護加算があるが、実際には、人員配置や医療機関との連携体制構築に大きな負担が伴い、対応できる事業所は限られている。医療的ケア対応型グループホームの整備促進、さらには、看取り体制を整える事業者への独自補助制度や体制整備支援の取組が必要だと考えるが、市の見解を問う。</p>		

発言順位	7	議員名	山中 裕 司 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>3 誰もが安心して暮らせる多文化共生社会の実現に向けて</p> <p>(1) 医療現場におけるユニバーサル問診票の導入について (要旨) 本市においても外国人住民は年々増加しているが、言語の壁により医療機関で不安を抱えている方が少なくない。特に問診の場面で症状が正確に伝わらないことは、診断や治療に影響を及ぼしかねない重要な課題だと考える。外国人住民に寄り添う具体策として、「やさしい日本語」を活用したユニバーサル問診票の作成・導入を進めるべきと考えるが、市の見解を問う。</p> <p>(2) 市ホームページの改善について (要旨) 現在、市ホームページでは、要配慮者支援ツールとして情報が整理されているが、外国人住民の立場から見た場合、医療、防災、子育て、福祉など、生活に必要な情報へ容易にたどり着ける構成にはなっていない。日本語の能力が十分でない方にも分かりやすい表示や導線の工夫が必要ではないかと考えるが、市の見解を問う。</p>		

発言順位	8	議員名	出雲 有希子（自由民主党明石）
発 言 事 項	<p>1 本市の法人及び個人事業主に対する施策について</p> <p>(1) 事業者向け支援について (要旨) 現在行われている事業者向け支援及び新年度から新設または拡充される事業者向け支援を問う。</p> <p>(2) 国の「賃上げ促進税制」を補完する施策を考えられないか。 (要旨) 国が行う「賃上げ促進税制」は税額控除であるため、黒字事業者でないと恩恵がない。人件費が高騰する中で、赤字事業者に対して国の制度を補完する支援を考えられないかを問う。</p> <p>2 中学校部活動の地域展開「あかしタイム」について</p> <p>(1) 先行して始まった剣道と柔道の現在の運営状況と課題について (要旨) 地域移行のモデル事業として始まった剣道と柔道について、現在どういった状況なのか。また、どういった課題が出てきているのかを問う。</p> <p>(2) 「あかしタイム」の運営団体（一般財団法人）の設立について (要旨) 学校給食会と一緒に一般財団法人を設立するとのことだが、学校関係というくくりだけで一緒に運営するメリットを問う。</p> <p>(3) 運営団体と実施主体を分ける以外にも、地域展開で課題となっている部分はあるのか。 (要旨) このたびは運営団体を作るとのことだが、実施主体及び指導者の人材確保という点での課題を問う。</p>		

発言順位	9	議員名	辻本達也(日本共産党)
発言事項	<p>1 自治基本条例に係る認識と「対話と共創」について</p> <p>(1) 対話を拒否しながら対話を強調していることについて (要旨) これまで具体例を挙げ、何度も指摘しているとおおり、対話は限定的である。発言内容と実態に乖離があると考え。認識を問う。</p> <p>(2) 多様な意見の保障を自ら否定したことについて (要旨) ワークショップの参加者に対し反対意見を言わないようにと事前に連絡があったと聞いている。「対話と共創」とは異論を排除し進められるものなのか。見解を問う。</p> <p>(3) 「参画と協働」「対話と共創」の理念と市の取組について (要旨) 市民間での情報共有に対して市が制限する行為があったと聞き及んでいる。認識を問う。</p>		
	<p>2 P F A S 汚染への対応について</p> <p>(1) P F A S について知り学ぶ勉強会の評価について (要旨) 内容は一方的であり、勉強会というより行政による発表会のような印象を受けた。事前に提出があった質問はどのようなものがあったのか。質問と回答を公表するべきと考える。また、市長との意見交換を要望している市民がいる。見解を問う。</p> <p>(2) 新年度の取組について (要旨) 「拡充」と説明があったが、予算や取組に大きな変化は見られない。認識を問う。</p> <p>(3) 農水産物等への影響について (要旨) 学校給食において有機・地産地消給食ウィークの実施を表明しているが、P F A S の影響についてはどのように考えているのか。実態を把握するべきと考える。認識を問う。</p> <p>(4) 公的責任による健康調査の実施について (要旨) 市民の健康調査、影響把握のため、血液検査の実施について改めて求める。また、出生児体重低下等、母子の健康影響との関係についても調査を進めるべきである。認識を問う。</p> <p>(5) 水道水基準及び許容摂取量の抜本的見直しについて (要旨) 政府に対し、申入れを行うべきと考える。見解を問う。</p> <p>3 中学校部活動の地域展開（あかしタイム）について</p> <p>(1) 新年度の取組について (要旨) 新たな競技等を追加するとともに、学校単位でのモデル事業も実施とあるが、どのような内容か。認識を問う。</p>		

発言順位	9	議員名	辻本達也(日本共産党)
発言事項	<p>(2) ウェイトリフティングへの支援について (要旨) 多くの優秀な競技者を輩出しながら民間任せとなっている。行政としての支援が必要と考える。見解を問う。</p> <p>4 スマートインターチェンジ計画について</p> <p>(1) 石ヶ谷公園への影響について (要旨) 梅林保全を前提に検討すると市長は表明したが、計画内容はどのようなになっているか。見解を問う。</p> <p>(2) 生物多様性の観点から見た梅の評価について (要旨) 12月議会において「梅は日本固有種ではなく、中国原産の外来植物であり、生物多様性の観点から、必ずしも保全優先の樹種とは言えません」といった意見が述べられたが、生物多様性の観点からいうなら真逆の見解ではないかと考える。認識を問う。</p> <p>(3) 市民への説明について (要旨) 既に自治基本条例に違反している状態にある。市長が出席し、自ら説明すべきである。認識を問う。</p> <p>(4) 意思決定の時期について (要旨) 次期市長・市議会議員選挙後に行うべきである。見解を問う。</p>		

発言順位	10	議員名	中西 礼 皇 (対話の会あかし)
発 言 事 項	<p>1 こども性暴力防止法（日本版DBS）への対応について</p> <p>(1) 実施体制と予算について (要旨) 法施行に向けて、事業を一元管理する部署の立ち上げと事前準備を含めた予算化が必要と考える。現時点での犯罪歴照会対象者の洗い出し、義務・任意対象事業者の確認状況について問う。</p> <p>(2) 義務対象施設の設置者としての明石市の取組について (要旨) 先行して改正する条例・規則や組織改編の見込み、現職者の性犯罪歴照会スケジュールについて問う。</p> <p>(3) 市が委託している任意対象事業者に求める取組について (要旨) 委託契約の条件として、認定取得及び子供と関わる職員の照会を必須とするのか。現在の契約条項の見直しを行うかについて問う。</p> <p>(4) 任意対象施設の認定取得について (要旨) 任意対象施設に対して認定取得を推奨するのか。市が委託している事業者への認定取得及び照会対象に含めることへの考え方はどうか。認定取得の努力義務化や防止措置の調査・勧告ができる条例制定の考えはあるのか問う。</p> <p>(5) 子供が自らの身を守るための啓発・教育について (要旨) 自治体の責務として子供や保護者等に対する啓発活動、教育の取組状況と法施行による今後の展開について問う。</p>		
	<p>2 対話と共創の取組について</p> <p>(1) これまでの共創の課題について (要旨) これまでのタウンミーティングやワークショップは、時間的制約や発言するプレッシャーなど、参加することに心理的障壁を持つ人が多いのではないかと。参加者の中の一人の意見が市政に対し大きな影響を与えることに違和感はないのか問う。</p> <p>(2) 無作為抽出の成果について (要旨) これまで行った成果はどうか。さらなる充実を求める。</p> <p>(3) デジタルプラットフォームによる参画について (要旨) 対面・公募のスタイルに加え、サイレントマジョリティーの意見をくみ上げるために、デジタル空間で気軽に意見や投票ができる仕組みが必要であると考え、見解を問う。</p>		

発言順位	11	議員名	家根谷 敦子(スマイル会)
発言事項	<p>1 手話言語・障害者コミュニケーション条例について</p> <p>(1) 電話リレーサービス「手話リンク」について (要旨) 本市では、令和7年11月1日から電話リレーサービスを活用した「手話リンク」が導入された。さらに公共交通機関や公共施設等への「手話リンク」導入を働きかけないか。</p> <p>2 誰ひとり取り残さないまちづくりについて</p> <p>(1) 明石市防災訓練について (要旨) 明石市防災訓練では、令和4年度から避難所の機能の確認、多様性なども視野に入れた取組が進められているが、地域の特性によってはさらに工夫が必要である。市の考えや今後の取組について尋ねたい。</p> <p>(2) 明石市ひなんサポーター研修の実施について (要旨) 令和6年1月27日に明石市ひなんサポーター研修が初めて開催された。市民の関心も高く、継続した開催が必要だと考える。今年度で3年目になるが、研修の効果や今後の予定などを尋ねたい。</p>		

発言順位	12	議員名	飯田伸子(公明党)
発言事項	<p>1 災害時の安全確保に向けた取組について</p> <p>(1) 自助の促進に向けた取組について (要旨) 災害対策のうち自助の割合は7割と言われている。国民の自助に対する意識は向上しているものの、実際に備えている割合は半数程度との調査報告もあるが、市民に対する自助の促進に向けた取組を問う。</p> <p>(2) 個別避難計画作成における課題と促進に向けた取組について (要旨) 新年度の主な取組に、個別避難計画の作成が挙げられているが、自治会からはマンパワー不足や個人情報への配慮等から作成に苦慮しているとの声を聞く。作成への課題と促進に向けた取組を問う。</p> <p>(3) 地域におけるひなんサポーターの活動について (要旨) 新年度の主な取組に、従来のひなんサポーターに加え、地域版ひなんサポーターの養成が挙げられているが、今後、ひなんサポーターは地域防災にどのように関わっていくのか。</p> <p>(4) ペット同室避難が可能なスペース確保への取組について (要旨) 令和7年3月の本会議において、全市民が徒歩で行ける範囲に最低1か所の「ペット同室避難」可能なスペース確保を求める請願が採択されたが、その後の取組状況を問う。</p> <p>2 小児がん患者及び経験者と家族への支援について</p> <p>(1) 本市における小児がん患者数の把握について (要旨) 当事者への支援を実施する際は、その対象となり得る人数の把握が必要であると考えるが、市として小児がん患者数の把握はしているのかを問う。</p> <p>(2) 入院中の子どもに対する学習支援について (要旨) 入院中の子どもは、学習の遅れに対する不安や取り残されたような孤独感を抱え、精神的に不安定になりやすい。入院中の子どもに対する学習支援を問う。</p> <p>(3) 治療を終了した子どもに対する保育・教育現場における支援について (要旨) 小児がんの治療を終了した後も、治療の影響による体力、筋力、免疫力等の低下や晩期合併症の出現、学習の遅れなどにより、長期にわたり特別な配慮を必要とする。しかし、ほとんどの子どもが医療的ケア児にも障害児にも該当しないため、公的支援を受けられない。保育・教育現場における支援を問う。</p>		

発言順位	12	議員名	飯田伸子(公明党)
発言事項	<p>(4) 小児がん経験者に対する就業支援について (要旨) 小児がん経験者は、その後の長い人生を晩期合併症の出現や慢性的な体調不良等、様々な困難を抱えて過ごすため、就業に対する不安が大きい。小児がん経験者に対する市の就業支援を問う。</p> <p>(5) 相談窓口の明確化について (要旨) 小児がん患者及び経験者とその家族は、病気や治療への不安以外にも、経済的困窮や精神的・体力的疲労、きょうだい児のケアなど、様々な悩みを抱えている。当事者が孤立することなく必要な支援にスムーズにつながれるよう、相談窓口を明確化しないか。</p>		

発言順位	13	議員名	高尾 秀彰 (明石維新の会)
発言事項	<p>1 妊娠により悩む人を孤立させない取組について</p> <p>(1) 妊娠前、妊娠期における支援について (要旨) 全国から見ても明石市は子育てのまちとしての評価が高く、モデル地域となっている。明石市子ども・子育て支援事業計画では、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援をより強固にすることを目標として取り組まれようとしているが、妊娠前や妊娠期に対して具体的にどのように支援するのが曖昧に感じる。妊娠前、妊娠期への対応をどのように考え、取組を行っているのか。見解を問う。</p> <p>(2) 予期せぬ妊娠に悩む人への状況について (要旨) 明石市では実際に予期せぬ妊娠に悩む人の相談を受け、支援する体制はできているのか。明石市子ども・子育て支援事業計画では、子どもを望む人や家庭を前提としているように捉えられるが、誰も取り残さない、誰もが住みよいまち、子育てのまちと果たして言えるのか。見解を問う。</p> <p>(3) 予期せぬ妊娠に悩む人への本市としての支援について (要旨) 本市として妊娠期から出産、相談後の支援のフローなど、その後継続的に関わる体制はどのようにされているのか。見解を問う。</p> <p>(4) 予期せぬ妊娠に悩む相談者への本市としての対応について (要旨) 兵庫県では「予期せぬ妊娠SOS相談」が設置されているが、本市独自の周知やフォロー体制をさらに強化するべきではないか。見解を問う。</p> <p>2 出産に対する不安、負担を和らげる支援制度について</p> <p>(1) 本市の出産の現状、年間出産件数に対する無痛分娩の状況について (要旨) 無痛分娩に対応している医療機関は市内に何か所あるのか。また、年間出産件数のうち、無痛分娩の実施状況、ニーズは把握されているか。見解を問う。</p> <p>(2) 無痛分娩に対する助成または支援制度について (要旨) 出産における選択肢の一つである無痛分娩に対して公的支援を行う自治体が増えつつある中、本市として無痛分娩に関する助成制度や、それに準ずるような制度はあるのか。または制度導入について何らかの検討を行っているのか。見解を問う。</p>		

発言順位	14	議員名	寺井吉広(かがやきネット・市民の会)
発 言 事 項	<p>1 水道管・下水道管の老朽化対策及び雨水管整備について</p> <p>(1) 水道管の老朽化対策について (要旨) 本市における水道管の耐用年数超過管路の延長及び全体に占める割合はどうか。また、近年の漏水・破裂事故の発生状況と、その主な原因の分析はどうか。さらに、老朽管更新に当たって、優先順位の考え方と、今後の更新計画・更新率の目標はどうか、市の見解を問う。</p> <p>(2) 下水道管の老朽化対策について (要旨) 本市の下水道管における老朽化の現状と、点検・調査の実施状況はどうか。また、道路陥没事故を未然に防ぐための点検方法及び頻度は十分なのか。さらに、老朽化が著しい区域や重要路線について、計画的な改築・更新はどのように進めるのか、市の見解を問う。</p> <p>(3) 雨水管整備と浸水対策について (要旨) 近年の集中豪雨による浸水被害の発生状況と、その要因の分析はどうか。また、雨水管整備の進捗状況と、未整備・能力不足が課題となっている地域の把握はどうか。さらに、雨水管整備に加え、貯留施設や流域治水の考え方を取り入れた総合的な浸水対策をどのように進めるのか、市の見解を問う。</p> <p>(4) 上下水道インフラを将来につなぐために。 (要旨) 上下水道の持続可能性を確保するため、財源確保や事業の平準化についての対策はどうか。また、技術職員が足りていないと感じるが、人員不足や技術継承といった課題に対しての市の見解を問う。</p> <p>2 中学校部活動の地域展開について</p> <p>(1) 中学校部活動の地域展開に関する現状認識について (要旨) 国の方針を踏まえた、本市における中学校部活動の地域展開の現在の進捗状況はどうか、市の見解を問う。</p> <p>(2) 地域展開を支える運営体制の整備について (要旨) 地域展開を成功させるためには、実施主体となる地域や指導者の負担軽減が重要であり、煩雑な事務処理を一元的に担う運営団体の存在が鍵になると考える。また、運営団体を通じた事務の集約化や財政的支援など、負担軽減に向けた具体策をどのように講じていくのか、市の見解を問う。</p>		

発言順位	14	議員名	寺井吉広 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>(3) 本格実施に向けたロードマップについて (要旨) 令和9年9月からの本格実施を実現するための今後のスケジュールはどうか。また、段階的实施やモデル事業の実施など、円滑な地域展開に向けた取組について、市の方針を問う。</p>		
	<p>3 自転車の利用環境の向上について</p> <p>(1) ソフト対策について (要旨) 青切符制度の内容を市民に周知するに当たり、高齢者、児童生徒、通勤・通学利用者など、対象ごとにどのように効果的な啓発手法を講じていくのか、市の見解を問う。</p> <p>(2) ハード対策について (要旨) 法改正（青切符導入）を踏まえた自転車走行空間の整備状況と今後の整備方針について、市の見解を問う。</p> <p>(3) 健康推進の観点について (要旨) ウォーキングやランニングと同様に、自転車も身近な運動として位置づけるべきと考えるが、市民の健康促進に向けた自転車利用の取組状況はどうか。また、健康部門と道路・交通部門が連携した施策展開が必要だと考えるが、市の見解を問う。</p>		

発言順位	15	議員名	井藤圭順（自由民主党明石）
発言事項	<p>1 就学前施設と幼児教育について</p> <p>(1) 待機児童対策の今後の施策展開について (要旨) 本市では、平成28年1月より待機児童解消に向けた緊急対策を実施してから10年が経過しており、その間、保育施設整備などの受入枠の増により開始当初からは待機児童数が減少しているものの、現状、待機児童の解消に至っていない。今後、就学前児童数の減少が見込まれる中、質の確保にも重点を置くべきと考えるが、本市の今後の施策展開を聞く。</p> <p>(2) 就学前児童の幼保小接続について (要旨) 発達上の課題や配慮を必要とする子供を含め、小学校入学は、環境の変化による「小1プロブレム」が起りやすい状況である。支援が必要な子供が就学前に新たな環境へ円滑に適応できるようにするために、本市がどのような実効性のある取組を展開するのかを聞く。</p>		
	<p>2 本市の防災・減災対策について</p> <p>(1) 本市の防災訓練の現状について (要旨) 本市の防災訓練は、令和4年度以降、地域の防災力を高めることを狙いとし、地震や津波による液状化の影響を受けやすい沿岸部地域を主体に各小学校区において実施してきた。直近の令和7年11月に行った本市の防災訓練の取組について、市の見解を聞く。</p> <p>(2) 本市の防災訓練の今後について (要旨) 一部の沿岸部の小学校区には、南海トラフ地震において避難の制約があり、明石市地域防災計画（2025年度修正）において、津波の警戒が必要な標高3メートル以下に所在する指定避難所は、津波被害のおそれがないと判断した後に指定避難所として運営する旨が記述されている。これらの地域では、今後、小学校区ごとに避難することにこだわらず、中学校区や小学校区を超えて避難の必要や避難所運営をする必要があると考えるが、今後の本市の防災訓練について、市の見解を聞く。</p> <p>(3) 避難所について (要旨) 本市の指定避難所である全小学校の体育館に、来年度中に空調設備が整備される予定になっており、避難所生活での熱中症予防や避難者のストレス軽減など、避難者の健康維持には有効な手段であるとする。来年度中に行う小学校体育館への空調設備の整備計画について、市の見解を聞く。</p>		

発言順位	15	議員名	井藤 圭 順 (自由民主党明石)
発言事項	<p>3 神戸マラソンについて</p> <p>(1) 神戸マラソン2025大会について (要旨) 昨年11月16日、本市域(大蔵海岸)までコースが延伸された神戸マラソン2025大会が開催され、素晴らしい秋晴れの下、2万人を超えるランナーが大蔵海岸を折り返し地点として走り抜けた。本市としての神戸マラソン2025大会の総括について聞く。</p> <p>(2) 神戸マラソン2026大会及び今後の取組について (要旨) 神戸マラソン実行委員会事務局より、神戸マラソン2026大会が11月15日(日)に開催を予定していると発表があった。来年度以降に向けて、さらなる明石のにぎわいと大蔵海岸の活性化に向けた神戸マラソンとするための今後の取組について、市の見解を聞く。</p>		

発言順位	16	議員名	長尾博子(公明党)
発言事項	<p>1 物価高騰に対する市民生活支援について</p> <p>(1) 物価高騰対策としてのプリペイド式ギフトカード配付について (要旨) 重点支援地方交付金の活用により各種支援策が実施予定の中、19歳以上の市民1人当たり3,000円のプリペイド式ギフトカードの配付額については、物価高騰が長期化する中で支援効果として十分であるのか疑問である。配付額の設定根拠について、市の見解を問う。</p> <p>(2) プリペイド式ギフトカードの配付時期について (要旨) 物価高騰が続く中、市民生活は厳しい状況にある。配付が8月となるのであれば、今まさに困っている市民への支援としては遅いのではないかと懸念する。プリペイド式ギフトカードの配付時期について、前倒しの検討を含め、市の見解を問う。</p> <p>2 共生社会の実現に向けた障害者支援の推進について</p> <p>(1) 障害福祉におけるデジタル機器支援の必要性について (要旨) 近年、情報デジタル機器は生活に欠かせないものとなっている。とりわけ、障害のある人にとっては、日常生活や社会参加を支える重要な支援ツールにもなり得ると考える。こうした観点から、情報デジタル機器を含めた支援の充実が必要ではないかと考えるが、市の見解を問う。</p> <p>(2) 新年度予算における障害者支援アプリ導入の目的と効果について (要旨) 新年度予算において、障害のある人を支援するためのアプリ導入の委託料が計上されているが、本アプリをどのように活用し、具体的にどのような支援につなげていくのか、市の取組を問う。</p> <p>3 持続可能な公共交通に向けた交通施策と県内共通ICカード相互利用の推進について</p> <p>(1) 新たな移動手段の調査検討の具体的内容について (要旨) 本市においては、コミュニティバスであるたこバスと、民間路線バスが運行されているが、特に路線バス地域では、減便や坂道の多い地理的特性もあり、交通不便を感じる市民は少なくなく、増便や新たな地域交通の導入を求める声も寄せられている。そのような中、新年度には、新たな移動手段の調査検討を行っていくとあるが、具体的にどのような視点・手法・スケジュールで進めていく考えか、市の見解を問う。</p>		

発言順位	16	議員名	長尾博子(公明党)
発言事項	<p>(2) 優待乗車制度における県内共通 I Cカード導入の検討状況について (要旨) 本市では、バス共通券優待乗車料金の県内共通 I Cカード利用について検討を進めていると聞いている。検討状況と今後の具体的なスケジュール、また、市民からも利用を望む声が多く寄せられているが、アンケート調査等によるニーズ把握を行わないか、市の見解を問う。</p>		

発言順位	17	議員名	林 丸 美 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>1 P F A S 汚染と血中濃度に関する現状認識及び調査の必要性について</p> <p>(1) P F A S について知り学ぶ勉強会について (要旨) 昨年12月に市民向けのP F A S に関する勉強会が開催され、水道水の現状や国の考え方について説明が行われた。大勢の参加申込みがあり、市民の関心の高さが伺えた。どのような効果があったか、勉強会の評価について問う。</p> <p>(2) 配水区域の違いによる血中P F A S 濃度の差について (要旨) 市民の任意による血液検査の結果、明石川を原水とする配水区域と、明石川を原水としない配水区域との間で、P F A S 血中濃度に差がみられ、専門家からは統計学的に有意な差があるとの評価も示されている。この結果は、水道水を通じた環境由来の暴露実態を示唆する重要なデータと受け止めるべきではないか、市の見解を問う。</p> <p>(3) 血液検査を暴露実態把握の調査として位置づける可能性について (要旨) 市はこれまで、P F A S による健康影響について「明確な血中濃度の基準が示されていない」、「血液検査時点の結果のみで健康影響を把握・予測することは困難」という国の見解を踏まえ、市による血液検査は行わないとしてきた。血液検査を、健康影響を判断するためのものではなく、暴露実態を把握する疫学的・予防的調査として捉える余地はないのか、市の見解を問う。</p> <p>(4) 自治体として主体的に調査を行い、その結果を国に示す考えについて (要旨) 明石市では配水区域の違いによる比較が可能であり、すでに差を示唆するデータも出始めている。「国の基準が示されるまで、市として調査は行わない」という姿勢を続けるのか、それとも、自治体として主体的に現状を把握し、その実態を国に示すことで、P F A S 対策を前に進める一翼を担うのか。市としての今後の方向性と覚悟について問う。</p>		

発言順位	18	議員名	三好 宏 (自由民主党明石)
発言事項	<p>1 企業版ふるさと納税の獲得強化について</p> <p>(1) 寄附対象事業の選定と企業へのアプローチについて (要旨) 本市におけるこれまでの企業版ふるさと納税の実績評価をどう捉えているのか。他市の取組の調査研究を踏まえて、どのような事業選定をし、企業側にはどのようなアプローチを考えているのかを問う。また、場合によっては、企業版ふるさと納税(人材派遣型)を活用し、事業強化を図るために、専門的知識・ノウハウを有する企業からの人材派遣を本市へ受け入れることも視野に入れるべきではないかと考えるが、市の認識を問う。</p> <p>2 コミュニティバス「たこバス」について</p> <p>(1) 物価高騰対策と財源確保について (要旨) 新年度の取組では物価高騰に係る運行経費の見直しとして、持続的な運行を維持するために、財源として地方創生臨時交付金を活用することは当然のことであると考えるが、次年度以降の財源確保はどう考えているのか。市の認識を問う。</p> <p>(2) キャッシュレス決済とICカード導入について (要旨) スマホによるキャッシュレス決済や、交通系ICカードの導入については、これからの時代を想定するのであれば、検討を進めるのではなく、導入への取組を進めるべきではないだろうか。これまで運行維持してきたことは評価しているが、時代の流れに合わせて改善や進化していくことが必要であると考え、市の認識を問う。</p> <p>(3) 新たな移動手段の調査検討について (要旨) 市内の地域によっては、高齢化が進む中で交通不便地も増えていることに加え、民間バスの減便などの影響もあり、新たな移動手段の調査検討が急務となっていることは明らかである。これからの市と地域との共創による新たな地域コミュニティ交通等の調査検討には期待をしているが、市の認識を問う。</p>		

発言順位	19	議員名	尾倉 あき子 (公明党)
発言事項	<p>1 幼児教育センター設置による幼保小の架け橋期の教育の充実について</p> <p>(1) 幼保小の架け橋期の本市の取組について (要旨) 幼保小の架け橋期の本市の取組状況を問う。</p> <p>(2) 架け橋期のカリキュラムの策定について (要旨) 幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具現化できるよう、国は架け橋期のカリキュラムの策定を推進しているが、本市における策定について問う。</p> <p>(3) 幼児教育センターの設置について (要旨) 架け橋期の教育の充実のためにも、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の研修、幼児教育の研究・啓発、教育相談などを行う幼児教育センターを設置しないか。</p> <p>2 第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」について</p> <p>(1) 学校図書館への新聞配備について (要旨) 学校図書館への新聞配備について、小中学校・高等学校の現状を問う。</p> <p>(2) 第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」における本市の取組と今後の取組について (要旨) 令和8年度までの計画であるが、本市の取組と今後の取組について問う。</p> <p>3 明石川の治水対策について</p> <p>(1) 明石川の治水対策の進捗状況について (要旨) 明石川の治水対策の工事期間が延長されたが、進捗状況について問う。</p> <p>(2) 地域住民への周知について (要旨) 工事期間延長に伴い、地域住民への周知について問う。</p> <p>(3) 明石川の治水対策の今後の計画について (要旨) 明石川の治水対策としての工事完了について問う。</p>		

発言順位	20	議員名	上田 雅彦 (かがやきネット・市民の会)
発 言 事 項	<p>1 路上喫煙防止条例の制定に当たり、市民の健康と安全を守る視点をどのように位置づけるかについて</p> <p>(1) 路上喫煙防止に関するこれまでの市の取組と課題認識について (要旨) 本市ではこれまで、空き缶等の散乱及びふん害の防止に関する条例に基づき、路上喫煙対策に取り組んできたが、駅前や公共空間における歩きタバコや受動喫煙の状況を見ると、一定の課題が残っていると考える。近隣他都市との比較を踏まえた本市の取組状況の評価及び課題認識について問う。</p> <p>(2) 路上喫煙による健康及び安全への影響について (要旨) 路上喫煙は景観やマナーの問題にとどまらず、受動喫煙による健康影響や、やけど等の安全面の問題を伴う。市民の健康及び安全確保の観点から、今後、制定予定の条例にどのように反映させようと考えているのか、認識を問う。</p> <p>(3) 条例目的への「市民の健康及び安全」の明記について (要旨) 今後、制定予定の条例を単なるマナー条例にとどめず、市民の健康及び安全を守る条例として位置づけるべきと考える。条例の目的規定に市民の健康及び安全を確保する旨を明記することについて、見解を問う。</p> <p>(4) 配慮を要する市民への位置づけについて (要旨) 条例の理念の中で、とりわけ影響を受けやすい子ども、妊婦、高齢者等への配慮をどのように整理するのか。公共空間における吸う自由と吸わない自由の在り方について問う。</p> <p>(5) 条例制定までの具体的スケジュール及び実効性確保策について (要旨) 令和8年度に予定されている審議会及びパブリックコメントを踏まえ、どのようなスケジュールで進めていくのか。また、路上喫煙禁止区域の設定や実効性確保策をどのように検討しているのか、見解を問う。</p>		

発言順位	21	議員名	金尾 良信 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>1 障害のある方がさらに投票しやすい環境づくりについて</p> <p>(1) 知的障害者をはじめとする障害のある方の投票環境の現状と課題認識について (要旨) 本市における知的障害者をはじめとする障害のある方の投票環境について、どのような合理的配慮が講じられているのか。また、当事者や関係団体からの課題の声と共生社会の実現という観点から、現状をどのように評価しているか、市の見解をお答えください。</p> <p>(2) 代理投票制度の積極的周知と情報保障のさらなる強化について (要旨) 代理投票制度は、支援を必要とする方にとって重要な仕組みであるが、その存在自体が十分に知られていない可能性もあると考える。重要な制度であり、合理的配慮の具体化の一つと位置づけられる。しかしながら、制度の存在や利用方法が十分に周知されていないければ、実効性は確保されない。そこで、当事者、家族、福祉施設等へ周知する取組をさらに図ることができないか、市の見解をお答えください。</p> <p>2 民生委員・児童委員の活動周知と担い手の確保について</p> <p>(1) 民生委員・児童委員の現状とさらなる活動周知について (要旨) 民生委員・児童委員が、全国的に減少していると聞いている。本市の現状を把握するとともに、地域福祉の重要な担い手である民生委員・児童委員を確保するため、地域住民に対し、民生委員・児童委員の役割や活動をさらに周知する必要があると考えるが、市の見解をお答えください。</p> <p>3 明石商業高校福祉科の現状と今後について</p> <p>(1) 現在の福祉科の取組について (要旨) 生徒の様子、社会福祉法人・事業所等への実習、ボランティアなどへの協力要請の状況について、市の見解をお答えください。</p> <p>(2) 社会福祉を学ぶ機会について (要旨) 障害福祉団体関係者と連携して、福祉をテーマに障害当事者の方を講師に迎えた学習を取り入れ、実際の福祉をより身近に感じるような取組ができないか、市の見解をお答えください。</p>		

発言順位	22	議員名	黒田 智子 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>1 学校給食無償化と子育て世帯への支援について</p>		
	<p>(1) 給食を食べていない家庭に給食費相当額の支援を行わないか。 (要旨) 給食無償化の目的は、給食を無料にすることそのものではなく、子育て世帯の経済的負担を軽減することである。しかし、現時点では、給食を食べる子を支援して、食べない子は支援しない制度になっている。給食を食べていない家庭にも給食費相当額の支援をすることはできないか。また、中学校給食においても同様に拡充できないか。</p> <p>(2) 2か月前倒し分の支援について (要旨) 本市が行っている小学校給食無償化の2か月前倒しが物価高騰に対する緊急支援であるなら、なおさら支援から外れる家庭を生んではならないと考える。市独自で実施している2か月分について、給食を食べていない家庭にも給食費相当額の支援を行わないか。また、中学校でも同様に支援ができないか。</p> <p>(3) もくせい教室や給食センターで給食を提供しないか。 (要旨) 不登校の子どもたちの居場所づくりや、栄養面・食育の観点から、教育支援センターで学校給食を提供する自治体がある。本市のもくせい教室においても、希望する子どもたちに給食を提供することはできないか。また、朝来市等の学校給食センターでは、学校に行きづらい子どもたちへの支援の一つとして給食を提供している。本市でも取り組めないか。</p>		
	<p>2 こども・若者計画について</p>		
	<p>(1) 計画の役割について (要旨) 現在の素案は、こども・若者の声を丁寧に集め、取りまとめられている。一方で、具体的な計画が見えない点に問題意識を持っている。明石市のこども・若者計画は理念を示す計画なのか。それとも、成果に責任を持つ実行計画なのか。その位置づけについて、市の見解を問う。</p> <p>(2) 具体的な目標設定について (要旨) 本計画によって、こども・若者の状況がどう良くなったのかは、何をもって判断するのか。PDCAサイクルによる推進を掲げているが、計画(PLAN)において目標や期限が明確ではない中で、何を実行(DO)し、何を検証(CHECK)するのかが不明確ではないか。成果指標や数値目標は設定されているのか。設定されている場合は、その内容を示されたい。また、学識経験者などの専門的知見はどのように反映され、今後はどのように具体化していくのか。</p>		

発言順位	22	議員名	黒田 智子 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>(3) 個別計画との連動について (要旨) 明石市社会的養育推進計画や明石市子ども・子育て支援事業計画等との関係をどのように整理しているのか。それぞれの計画の成果を、全体として、こども・若者の状況がどう改善したのかという形でまとめて示す仕組みはあるのか。市の見解を問う。</p> <p>(4) 市長の考えについて (要旨) 現時点での素案は、方向性を示す文書にとどまっているように見受けられる。市民にとって、何が、どれだけ、よくなったのかが分かる計画へと高めていく考えはあるか。成果指標及び検証方法を本文に明記することについて、市長の見解を問う。</p> <p>(5) こども・若者政策課について (要旨) 新年度からこども政策課がこども・若者政策課に改まることは、若者支援を前に進める姿勢として評価している。人員体制や役割はどのように強化されるのか。本計画の推進と若者支援を実行できる体制になるのか。市の見解を問う。</p>		
	<p>3 明石サービスエリアへのスマートインターチェンジ設置について</p> <p>(1) 梅園を守る新ルートへの検討状況について (要旨) 具体的にどのようなルート案が検討されているのか。各案について、技術的な課題・概算事業費・用地確保の見通し、事業期間をどのように考えているのか。また、地元住民や市民への説明や意見聴取は、いつ頃、どの段階で、どのような方法で行う予定なのか。市の見解を問う。</p> <p>(2) 石ヶ谷公園への影響はどの程度なのか。 (要旨) 石ヶ谷公園全体のうち、どの程度の面積に影響が及ぶのか。具体的に、どのエリアが道路用地となる想定なのか。また、交通量の増加による騒音・排気ガス等について、環境基準との比較はどうなるのか。景観や自然環境への影響はどのように評価するのか。また、公園機能の縮小や安全性への懸念にはどう対応するのか。市の見解を問う。</p> <p>(3) 国へのエントリーの是非を判断するための費用と時期のめどについて (要旨) 新年度も3,900万円の調査費が計上されている。市長が国の準備段階調査箇所へのエントリーの是非を判断するまでに必要となる調査・設計等の費用総額はどの程度なのか。判断までのスケジュールは設定されているのか。最終判断はいつまでに行う予定なのか。市の見解を問う。</p>		

発言順位	22	議員名	黒田 智子 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>(4) スマートインターチェンジ設置で実現したいまちづくりのビジョンを先に示すべきではないか。</p> <p>(要旨) 数年前の複数議員からの提案をきっかけに検討が始まり、国へのエントリーを目指して市が動いている状況である。しかし、本来は、本市が目指す将来像や交通政策上の位置づけ等を明確にした上で、その実現手段の一つとしてスマートインターチェンジ設置の必要性を検討すべきではないか。設置ありきではなく、総合的なまちづくりビジョンの中で判断すべきと考えるが、市の見解を問う。</p>		

発言順位	23	議員名	中川 夏望 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>1 医療的ケア児等を育てる家族の支援について</p> <p>(1) 在宅レスパイト支援制度を導入しないか。 (要旨) 姫路市で起きたシングルマザーが医療的ケア児を置き去りにし窒息死させた事件等を受け、令和7年3月議会で在宅レスパイト支援制度の導入について質問した。市として、どのような取組ができるかを検討するとのことで、訪問看護ステーションや周辺市町の状況等を調査したと聞いているが、その調査した結果はどうだったのか。早急に実現してほしいと考えるが、市の見解を問う。</p> <p>2 令和8年度当初予算について</p> <p>(1) 明石駅周辺地区整備事業について (要旨) 国の都市構造再編集中支援事業を活用するため、アスピア明石への歩行者空間整備事業と旧市立図書館跡地の整備事業は、一体として検討しなければならない。前者は2階の歩行者デッキ整備が頓挫し、計画を修正している段階であり、後者は解体計画の見直しによって解体期間の延長が見込まれているため、ともに工事費が確定していない。この事業で約3億8千万円の当初予算が計上されているが、金額の見通しが立っておらず、事業全体として進めるべきか判断ができない状況である。この段階で当初予算として計上することは時期尚早ではないか。市の見解を問う。</p> <p>(2) 市民病院の再整備が一般会計に与える影響について (要旨) 市民病院の再整備に係る基本構想策定支援が予算に計上されている。令和7年6月の文教厚生常任委員会で、現在の赤字が続くと、10年以内に市民病院の基金が底をつき、赤字補填と整備費用は全額一般会計の負担になるのではと指摘した。来年度、診療報酬が改定されるが、病院の赤字経営は全国的な課題であり、経営努力で改善するとは考えにくい。このまま再整備を進めると、数年後には本市の市民サービスが継続できない状況になるのではないかと懸念している。赤字経営が改善しない状況で計画どおりの移転建て替えを実施するのであれば、一般会計に重大な影響を及ぼすことになるが、市は財政運営上、問題ないと考えているのか。また、基本構想で現在267億円程度とされる工事費をいくらかに圧縮すれば、財政基金70億円を維持できると想定しているのか。市の見解を問う。</p>		

発言順位	23	議員名	中川 夏望 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>3 公立学校のプール施設の展望について</p>		
	<p>(1) 朝霧小学校のプールの全面改築計画はどうなっているのか。 (要旨) 令和7年度の予算に朝霧小学校のプールの全面改築が計画され、2,170万円の設計委託費が計上されていた。令和8年度は改築に着手するはずだが、その旨の記載がどこにもない。朝霧小学校のプールはどうなるのか。市の見解を問う。</p> <p>(2) 市内の学校全体としてプール施設の方針と計画を示さないか。 (要旨) 老朽化を迎えている本市の公立学校のプールは、現在、学校ごとにそれぞれ改築や民間委託の方針を決めている。公平な教育機会の確保と効率的な施設の更新を進めるためにも、市全体としてプール施設の今後の方針と更新計画を示し、プールの改築や民間委託等を進めるべきではないか。市の見解を問う。</p>		
発言事項	<p>4 放課後児童クラブの今後について</p>		
	<p>(1) 放課後児童クラブの待機児童ゼロを継続する施策は。 (要旨) 放課後児童クラブの利用者は年々増加している。令和7年度は市内全体の受入枠の93%が埋まっている。令和8年度の申込者数は現時点で前年から何人くらい増加しているのか。また、施設の状態を踏まえ、今後も待機児童ゼロを継続するために、どのような施策を実施するのか。市の見解を問う。</p> <p>(2) 放課後児童クラブの質の向上について (要旨) 利用が増える中、人員の確保とともに、放課後児童クラブの質の向上が課題となっている。今年度、保護者や児童へのアンケートを実施しているが、そのアンケートからどのような課題が明らかになったのか。また、それをどう改善していくのか。市の見解を問う。</p>		
	<p>(3) 放課後児童クラブの募集要件の変更について (要旨) 令和9年度の募集要件の変更が予定されている。この変更で就職活動は要件から削除される。これにより、放課後児童クラブの運営にはどのようなメリットがあるのか。額面どおりに受け止めると、4月入所は前年の11月中旬に受付が終了するため、11月までに内定をもらわなければ4月入所ができなくなる。また、転職する際は次の就職先が決まっていなければ、退職時に一度退所し、次の就職先が決まってから再度入所申込みをしなければならなくなる。新たに困る家庭、混乱する家庭が発生することが想定される。体制整備が優先されており、子育て世帯への配慮が後手に回っているのではないか。市の見解を問う。</p>		

発言順位	24	議員名	山下 祥 (かがやきネット・市民の会)
発言事項	<p>1 大蔵海岸の魅力向上に向けて</p> <p>(1) 明石港東外港地区賑わい創出事業との連携について (要旨) 令和7年9月に兵庫県と締結した明石港東外港地区再開発の推進に関する基本協定や賑わい創出事業に関する協定を契機に、大蔵海岸への回遊性向上にも期待が高まる。そのためには、現在進行中の大蔵海岸みらいプロジェクトを踏まえた本市の考えを十分に反映できることが望ましいと考える。県との連携について、今後の具体的な内容と展望を問う。</p> <p>(2) 大蔵海岸みらいプロジェクトのさらなる広がりについて (要旨) 朝霧地区に近接する神戸市西区のスポーツ施設が、バレーボール日本代表の新たな強化拠点として整備される方針が示されている。このことは、大蔵海岸がビーチバレー強化拠点としての可能性を広げる契機になり得ると考えている。かねてより提案しているビーチ・マリンスポーツの国際的祭典「ワールドビーチゲームズ」日本招致を神戸市とともに取り組む等、このタイミングでの神戸市との連携が鍵になると考える。これまでの神戸市との協議状況や今後の展開について、市の見解を問う。</p>		